



TITLE:

山本會長の外遊順路は?

AUTHOR(S):

CITATION:

山本會長の外遊順路は?. 天界 1933, 13(145): 177-177

ISSUE DATE:

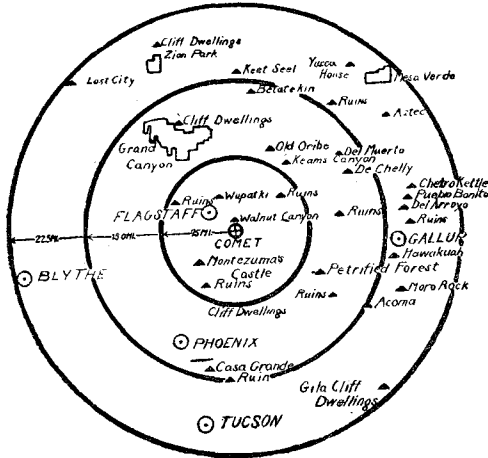
1933-04-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/162351>

RIGHT:

近數哩の地に散亂し、衝突の刹那の激動と、核を包圍せし瓦斯の高熱壓の爲め衝突地點を中心に450哩の圏内の、あらゆるものを破壊し、焼き盡くし生きとし生けるものを絶滅せしめたのである。



E. V. Sutton 氏作の左の地圖はアリゾナ州に衝突した一彗星が毒ガスを225哩までも擴がらせたことを示す。

又此圏内の山々に大きな地割れがある。此の割目が盡く隕石坑に向つて開かれてあるを見ても、衝突の激烈さを物語るものである。

而して此の壯絶悲絶なる地球と彗星の衝突は、彼の伐木、建築の突然中止されたる1278年にして、今より實に654年前の事であつたらう。（1932年12月稿）

山本會長の外遊順路は？

別記の如く、今回わが山本會長は學術研究會議及び京都帝國大學よりの代表として汎太平洋學術會議に參列のため渡米されることとなつたが、之れについて、或る三人の親切な友人が、それぞれ最も望ましいと思ふ外遊順路を考案して會長に薦めてゐられる。それは

A 案 ボクトリヤ、バンクーバー兩地の會議が終つたならば、カリフォルニアを一巡して、すぐ歸朝すること。

B 案 會議後、シカゴ、トロント、オタワ、ボストン、ニウヨーク、フィラデルフィア、ワシントン等を歴訪の後、ニウヨークから乗船、パナマ運河とロスアンゼルスを経て歸朝すること。

C 案 會議後、シカゴ、ニウヨークを経、大西洋を渡り、マラガ、ゼノア、ゼニス、プリンデシ、アテネ、イスタンブール、エルサレム、ポルトサイド、コロンボ、シンガポアを経て神戸に歸着すること。

時間と旅費の都合で、山本氏は果して何れの案を實行されるやら、——只、刻々送られる旅中通信のみが物語るであらう。（編輯子）